



▶ 7 juin 2015

Media category: Magazine
Date: 2015/6/7
Media name: MODERN LIVING
Media company name: HEARST FUJIN GAHOSHA
Circulation: 40,000
Headline: MILANO SALONE 2015

26: FLOS

MILANO SALONE 2015



Profile フィリップ・スタルク
1949年フランス、パリ生まれ。79年スタルク・プロダクト社設立。「身近なものこそデザインが必要」という考えから、家具はもちろん水栓などの設備、靴やヘッドフォンといった小物まで、さまざまな作品を手がけている。

INTERVIEW WITH PHILIPPE STARCK

デザイナー フィリップ・スタルク インタビュー

「デザインに必要なのは、洗練されているながら、抽象的なことです」

—— フィリップ・スタルク

量 産できること、ハイテクノロジーであること、最初から多数のモデルを揃えること。数々の成功を取ってきた世界的デザイナー、フィリップ・スタルクが、成功する理由として挙げた3つの条件だ。次々に進化する照明において最新技術を取り入れることはマストだが、「テクノロジーの先に行ってしまうデザインは、2年経つと古くなってしまふ。重要なのは、洗練されているながら、抽象的なこと」と語る。今回の新しい作品はまさにその言葉どおり。技術的にはLEDによるエッジライティングという方法を用いているが、特徴はフレキシブル。「購入してしばらく経って気が変わ

れば、パーツだけ“替える”。照明も自分みにできなくては。著名デザイナーの名作照明を手がけてきたフロスが、若者だったスタルクに、ある日突然声をかけてくれたときの驚きは忘れられないと言う。それ以降、多くの仕事を一緒にしてきたが、「フロスという会社ではなく、人と仕事をしているんだ。ピエロ・ガンディーニ(社長)とね」と語る。4年前に生まれた息子の名づけ親はピエロに頼んだ。住宅においていちばん大切なことは何ですか?と尋ねると、「愛する人と一緒にいること。そしてその次に大切なのが光＝照明。光がないと愛する人が見えないからね」。



1・2・3 フィリップ・スタルクの新作は、シェードを取り換えできるとが特徴。ファブリックを使ったクラシカルなブリックのもの(2)や、プラスチックのクリアやレッド(1・2)、天然のラフィアを使用したものなど、シェードの素材によって雰囲気が変わる。本体もクロームと銅パーから選択可能。洋風のように気分に合わせて“光を替える”照明。

26: FLOS

フロス

素材、形、サイズ。LEDだからこそ実現した多彩なデザイン

2年に1度開催される照明の展示会「EuroLuce」。今や常識となったLED技術によって、フロスでは今年も幅広いデザインを発表した。構成はロン・ジラッドが担当。会場を「FLOSギャラリー」と名づけ、作品をガラスケースに収めるなどアートのように展示。屋外照明ブランド、aresとパートナーシップを組んだことから「Garden」という別ブースも用意され、屋外照明のさらなる発展にも期待が高まる内容となった。

© 日本フロス <http://japan.flos.com>



4 雲っばから着想を得たという、薄いシェードが軽やかな「SERENA」は、パトリシア・ウルキオラのデザイン。5 ジャズバー・モリソンによる「Superior」。光源は360度回転＆視差も可能で、一台でフロアスタンドにも読書灯にもなる。